

2019JAF関東ジムカーナ選手権第7戦 JMRC関東オールスターシリーズ第7戦 JMRC全国オールスター選抜第7戦
スピリットテクニカルジムカーナ [JAF公認No.2019-1321]

開催日: 5月3~5日 開催場所: 愛媛 格式: 国内

開催日: 7月21日 開催場所: 宝台樹スキー場駐車場 格式: 準国内 主催: T-SPIRIT [クラブ登録No.加盟11056]

フォト&レポート/友田宏之

10年ぶり復帰の萩原宗宏ロードスター、86/BRZ 勢を撃破



参加24台と最多エントリーを数えたPN3クラスは、今年、10年ぶり復帰の萩原宗宏選手がシーズン2勝目を獲得した。

今

季第7戦目となるJAF関東ジムカーナ選手権が7月20日、群馬県の宝台樹スキー場駐車場で開催された。長引く梅雨の影響で天気が心配されたが、日中は陽がさす好天となり、第1、第2ヒート共にドライ路面での戦いとなった。

会場の宝台樹は平面の駐車場を使用したフルパイロンコース。コース全体の傾斜がややきつく、特にブレーキングやターンでは思わぬタイムロスにつながるため、傾斜を考慮する事もこのコースの重要な攻略要素となる。今回はスラロームとターンを中心とした構成で、ストレート区間はほとんど無いテクニカルな設定で争われた。

毎戦多数のエントリーで熾烈な戦いが繰り広げられているPN3クラスは、主力車種の86/BRZに加えてロードスターRFを選択した選手が参入し、戦況に変化が起きている。今シーズンからロードスターを投入した松本悟選手は既に3勝を上げ、現時点でのポイントリーダー。そしてシリーズ3番手には同じくロードスターの萩原宗宏選手。更に前回の第6戦では松本、萩原両選手と徳武銀可選手の3名がロードスターで表彰台を独占するなど、86/BRZ勢を脅かす存在だ。

そして第1ヒート。上位陣が1分10秒台で争われる中、09秒台に突入した萩原選手が暫定トップに立つ。続く2番手の松本選手も09秒

台と今回もロードスター勢が好調だ。第2ヒートになると自己タイムを更新する選手は続出するが10秒を切る選手は現れない。そういった中、徳武選手が3番手ながら09秒台に突入し、ロードスター1-2-3体制に。

しかし、2戦連続表彰台の独占を阻止したのが昨年度のチャンピオン、BRZの中村光範選手。惜しくも萩原選手のタイムには届かなかったものの2番手タイムでゴール。萩原選手、松本選手共にタイムダウンに終わったため、第1ヒートのタイムで萩原選手が逃げ切り、優勝となった。

「10年ぶりに復帰しました。クルマの動きと自分のドライビングが、ようやく繋がってきた感じです。今後の課題は第2ヒートでタイムアップする事です」という萩原選手は今季2勝目、シリーズ順位も2位に。一方、僅かに及ばなかった中村選手は「ここ(宝台樹)はBRZが有利だと思ってたので勝たなかったのですが……」と残念な表情を浮かべていた。

1500ccのロードスターが主力のPN1クラスは、昨年までPN3で戦っていた杉谷伸夫選手が優勝。「同じリア駆動なので苦労しないと思ってたのですが(笑)、まだロードスターのメリットを活かせてないですね」と、自身の課題

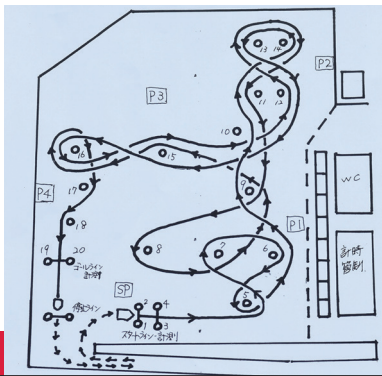


1. PN4クラスは2本目ミスコースに終わったものの金子博選手がヒート1のタイムで逃げ切った。2. PN2クラスは稲木亨選手が2ヒートともベストを奪って、今季初優勝を飾った。



3. 0.07秒差という僅差に泣いたPN1山口晃一選手。4. SA2で2位入賞の中島裕選手。5. PN2で2位入賞の川島一朗選手。6. 中村光範選手はPN3で2位入賞。7. PN1クラスは唯一1分9秒台にタイムを入れた杉谷伸夫選手がシーズン2勝目を上げた。8. SA1は全日本で活躍する若林兄弟の父親である若林良峰選手が逆転優勝を飾った。9. SA3クラスは小林純選手が早くも今季3勝目を獲得。10. SA2はヒート1、ミスコースに終わった徳富太一選手が7台のごぼう抜きで3連勝をマークした。11. SA3で2位入賞の金子進選手。12. PN4で2位入賞の石黒義弘選手。13. かつこ選手はSA1で2位入賞。14. 松本悟選手はPN3で3位入賞。15. PN3で4位の徳武銀河選手。16. PN2で3位の濱田洋昭選手。17. SA2で3位の齋藤寿選手。18. PN3で5位の勅使河原誠選手。19. PN3で6位の大坪伸貴選手。20. PN1で3位の三上将寛選手。21. PN2クラス表彰の皆さん。22. PN4クラス表彰の皆さん。23. SA1クラス表彰の皆さん。24. SA2クラス表彰の皆さん。25. SA3クラス表彰の皆さん。26. PN1クラス表彰の皆さん。27. PN3クラス表彰の皆さん。

今回のコース図。スタート直後からタイトなターンが連続するテクニカルな設定となった。



はあるものの今季2勝目を上げた。PN2クラスは稲木亨選手が地区戦では久々の優勝となった。

「梅澤選手とチャンピオン争いをしたかったのですが、前半戦の調子が悪すぎました」と稲木選手。その梅澤高志選手は今回シリーズチャンピオンを決めるチャンスだったが、なんとダブルミスコースを喫してしまい、次戦以降持ち越しとなってしまった。

PN4クラスは金子博選手が優勝。「路面の傾斜に上手く対応出来ずミスが多かったのですが、勝てて良かったです」と、前回に続き2連勝。そしてSA1クラスは「20数年振りですか

ね(笑)。やはりジムカーナは楽しいですね」と語った若林良峰選手が優勝。若林選手は、全日本で活躍する若林隼人、拳人兄弟の実父。昨年の拳人選手のCR-Xで、かつこ選手とダブルエントリー。第1ヒートはかつこ選手に先行されたが、第2ヒートで逆転優勝を飾った。

SA2クラスで優勝した徳富太一選手は、「2本めはコースの傾斜を上手く利用できたと思います。小さなミスはありましたが、納得の走りが出来ました」と、第1ヒートのミスコースから逆転で優勝を決めた。SA3クラスは「前日の練習ではクルマの調子がイマイチだったのですが、原因は自分の整備ミスでした(笑)」という小林純選手が、調子を取り戻し今季3勝目を上げた。